

2022年度活動報告書 赤松正行 役職：教授

学内での活動

1. 研究科長

学内および学外との諸事を調整し、円滑な運営が行えるように検討して実施した。

2. 委員会

教授会、運営会議、教務委員会（委員長）、入学試験委員会、システム委員会、入学試験実施委員会（委員会）、兼職兼業院界、自己点検委員会（委員長）、発明等審査委員会、研究倫理審査委員会（委員長）のメンバーとして所管業務を行い、円滑な学校運営に努めた。

3. 授業

3-a. メディア表現基礎3

全教員が参加するメディア表現基礎3では、高度なメディア表現に必要な知識や技能を身に付けるためのメディア表現特論の講義の概要を紹介した。個人の担当講義としては、現実の認識問題や自律分散型の社会や表現の在り方を考察し、その後の展開への端緒を開いた。

3-b. メディア表現特論B

小林昌廣教授、前林明次教授とともに専門科目であるメディア表現特論Bを担当し、全教員による議論では今日のメディア表現と身体および環境をめぐる動向と諸問題を検討した。個別の講義では、リアリティとモビリティをテーマとして個人作品の紹介を通して、テクノロジーによる意識の変遷を考察し、簡単な実習としてモバイルAR作品の企画と実装による実践を行なった。

3-c. 特別研究

個人ゼミを主催し、担当学生とともにメディア・アート関連の議論と制作を行い、学生の修士研究や年次制作などの指導をゼミとして行った。また、構想発表、中間発表、作品審査、論文審査・最終試験、年次制作の学生発表に対して助言指導を行った。

3-d. プロジェクト実習

萌芽プロジェクトとして「プラクティカル・サイクリング」プロジェクトを瀬川晃准教授と松井茂准教授とともに実施した。これは自転車を対象とする実習プロジェクトの実施可能性を検討することを目的として、各地での実走調査や作品制作といった実践的な取り組みを行った。その結果として本プロジェクトを拡張して「運動体設計」プロジェクトを企画立案するに至った。

学外での活動

WEBサイト、展覧会、アプリなどを通じて、作品の構想から制作、発表、記録などの一連の作業を行った。これらの研究は自転車を中心として、モバイル・デバイスやウェアラブル・デバイス、そしてAR（拡張現実・変容現実感）やVR（仮想現実感）を応用した表現であり、伝統的な形式を超える新しい可能性を探求した。2020年初頭より世界的な流行となった新型コロナウイルス感染症の影響で、調査や制作などに大幅に制約を受け、結果的に作品発表などは少なくなった。一方で、新設される自転車関連施設でのアドバイスをを行い、新しい形態の自転車研究など今後の研究活動の礎となる調査や検討を行なった。さらに、立体造形物や写真・映像作品などの個人的には新しい形態の作品制作と展示発表、書籍の出版、国際会議の作品審査を行った。

活動歴（2022年4月～12月、時系列逆順）

2022.12.06～12.09 展覧会「SIGGRAPH Asia 2022 Art Exhibition」審査, Daegu, South Korea

2022.10.23 書籍「Global Media Arts Education: Mapping Global Perspectives of Media Arts in Education」出版（共著）, Palgrave Macmillan

2022.09.11～11.02 展覧会「タレスの刻印」制作・展示, 東京都

2022.04.23～05.29 立体作品および映像「リ・サイクルの自転車」制作・展示, 池田町

2022.04.23～05.29 立体作品および映像「古墳時代の自転車」制作・展示, 池田町

2022.04.15 自転車施設「BLOCK47」オープン協力, 羽島市

2022.04.03 - 2022.12.30 WEBサイト「Critical Cycling」運営・執筆, <http://criticalcycling.com>